

利用者の情報行動

佐藤翔（同志社大学）



研究者氏名	佐藤翔
ハンドル	min2fly
URL	http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/
所属	同志社大学
部署	免許資格課程センター
職名	准教授
学位	修士（図書館情報学）(筑波大学), 博士（図書館情報学）(筑波大学)
科研費研究者番号	90707168
Twitter ID	min2fly

プロフィール

同志社大学免許資格課程センター准教授。図書館司書課程を主として担当。
ブログ「かたつむりは電子図書館の夢をみるか」 (<http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/>) 管理人。最近は全然、更新していませんが・・・。

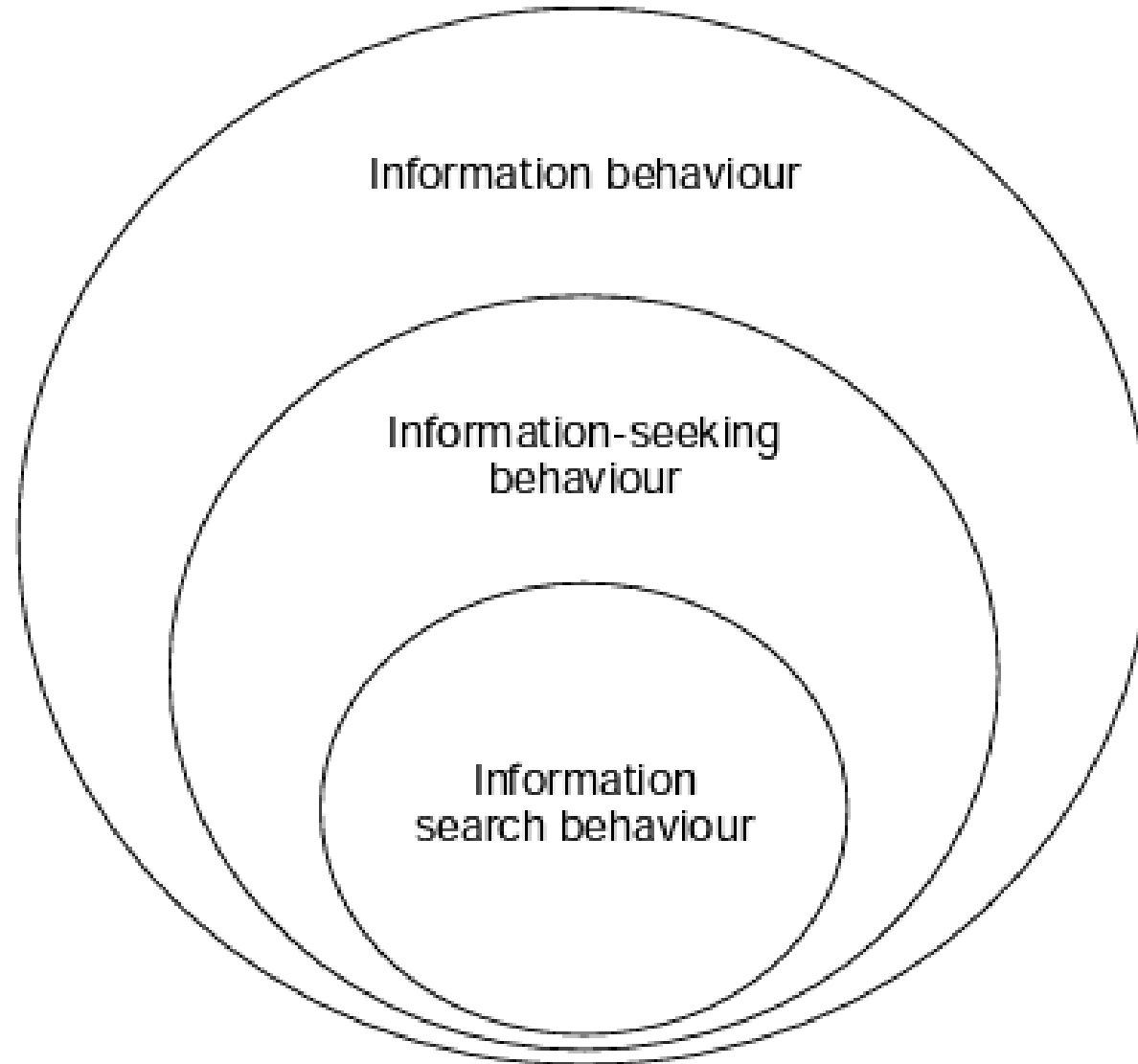
研究キーワード

[オルトメトリクス\(3\)](#), [公共図書館\(22\)](#), [ブラウジング\(1\)](#), [ログ分析\(2\)](#), [情報行動\(19\)](#), [視線追尾\(1\)](#), [計量書誌学\(24\)](#), [アウトソーシング\(6\)](#), [機関リポジトリ\(7\)](#), [学術情報流通\(21\)](#), [大学図書館](#)

<http://researchmap.jp/min2fly/>

情報行動とは？

情報行動とは



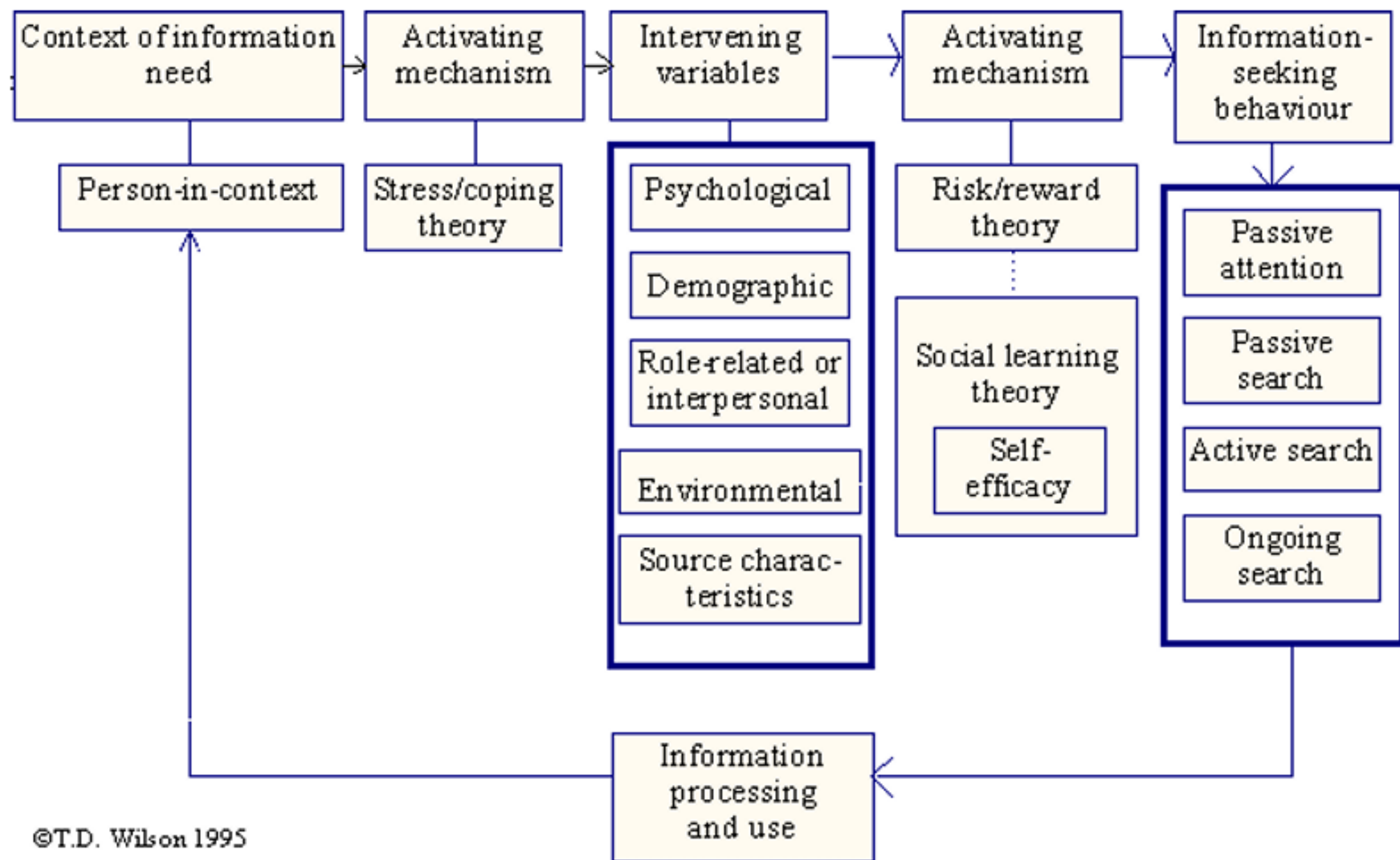
情報行動研究のアプローチ

- システム志向

- システム = 情報源がどう使われるか？

- 利用者志向

- 利用者が置かれた文脈・状況の中でどう情報を利用しているのか？



利用者志向の情報行動研究

- ツール・サービスのみへの注目では不十分
- 利用者の置かれた文脈・環境
- 利用者にとってのゴール
 - 直近、遠隔、ひいてはその向こう？

利用者を知る意義

- ニーズとかけ離れたものの除去
- ユーザビリティの向上
- 利用者満足度向上

×要求をすべて受け入れること

大学（図書館）と利用者行動

- ゴールのメタ多重性
- 「利用者（学生・研究者）のゴール」
- 「大学のゴール」
 - 両者は一致しているか？（理想と現実）

学生の情報行動

学生の「ゴール」

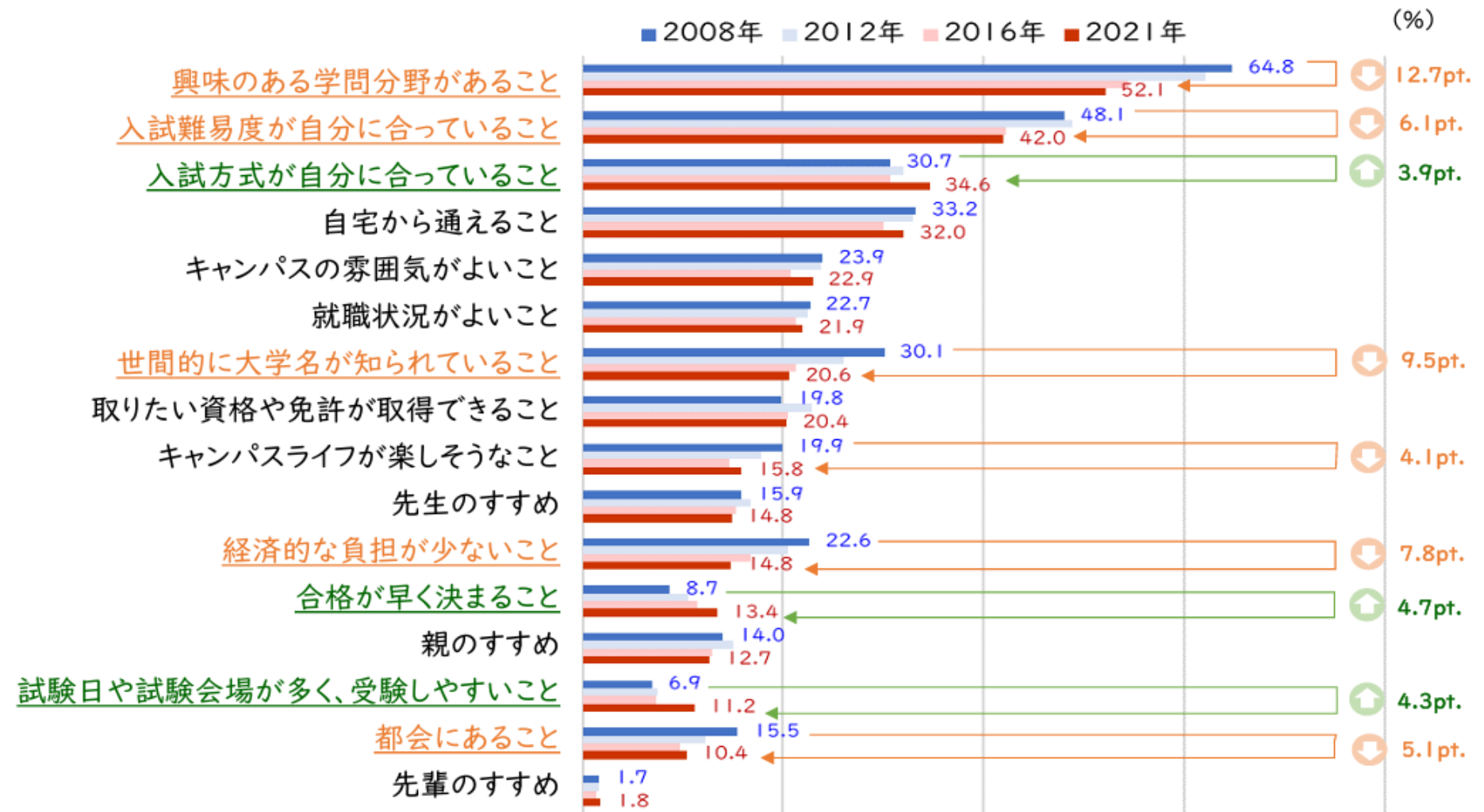
- 遠隔：レポート提出、単位取得、卒論作成・提出
- 超遠隔：学位取得、良好な成績、自身のキャリア、人間的成長……
- 何を求めて大学に来ているのか？

◆大学進学理由

【10】

● 「興味のある学問分野」「大学名が知られている」が減少

◆受験する大学・学部を決める際に重視した点について、あてはまるものをお選びください。



※4時点で比較できる項目のみを抜粋、2012年と2016年の数値の表記は省略した。

◆大学教育観①

【15】

●「単位を楽に取れる授業」「学習方法は授業で指導」が増加

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

①単位取得

【A】あまり興味がなくとも、単位を楽にとれる授業がよい

【B】単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



②授業難度

(%)

【A】応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本が中心の授業がよい

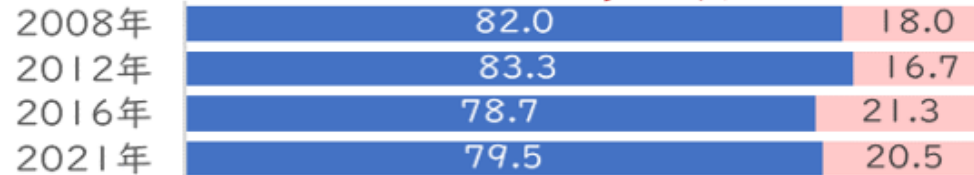
【B】基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容が中心の授業がよい



③授業形式

【A】教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい

【B】学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい



④身につけたい知識

【A】大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい

【B】大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい



⑤単位の系統

【A】あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい

【B】あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい



⑥学習方法

【A】大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

【B】大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい



◆大学教育観②

【16】

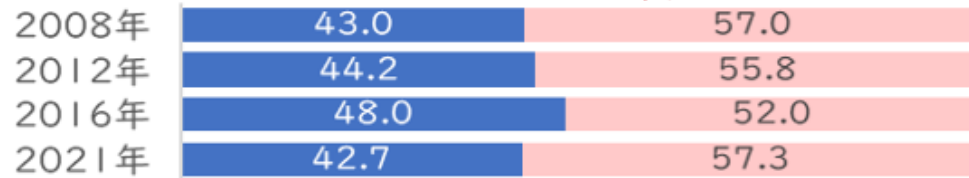
●「学生生活は大学が指導」「知識・技能の獲得は大学の責任」が増加

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

⑦将来決定

【A】学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい

【B】学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい

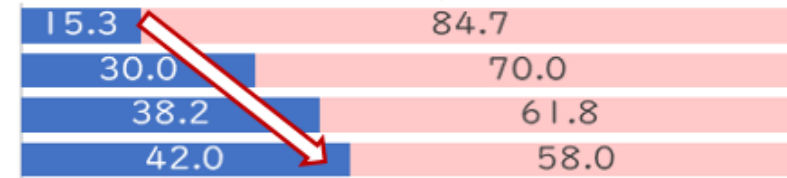


⑧学生生活

(%)

【A】学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

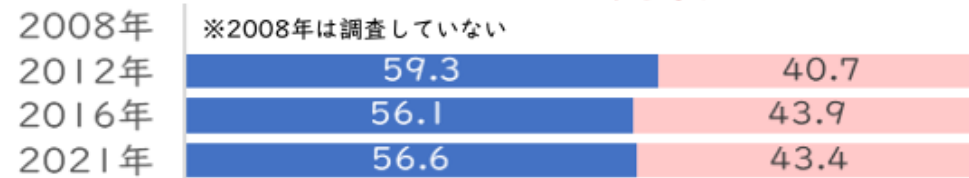
【B】学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい



⑨就職活動

【A】就職については、大学の指導・支援にもとづいて活動する方がよい

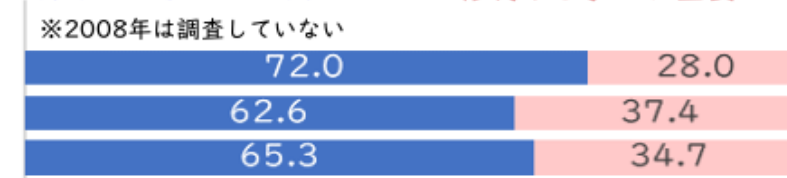
【B】就職については、学生の自主性にもとづいて活動する方がよい



⑩重要な学び

【A】大学では、答えのない問題について、自分なりの解を探求する学びが重要だ

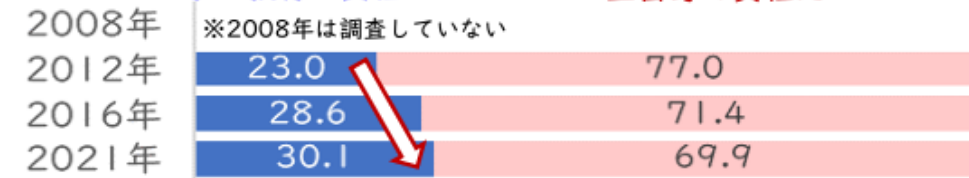
【B】大学では、既にある学問の知識について、体系的に修得する学びが重要だ



⑪責任

【A】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、大学の教育の責任だ

【B】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、学生自身の責任だ



学生の「ゴール」

- 学生は自分ではあまり考えてない?!
 - 「もう生徒じゃない」は通じない
- 社会／大学の側は考えているか？

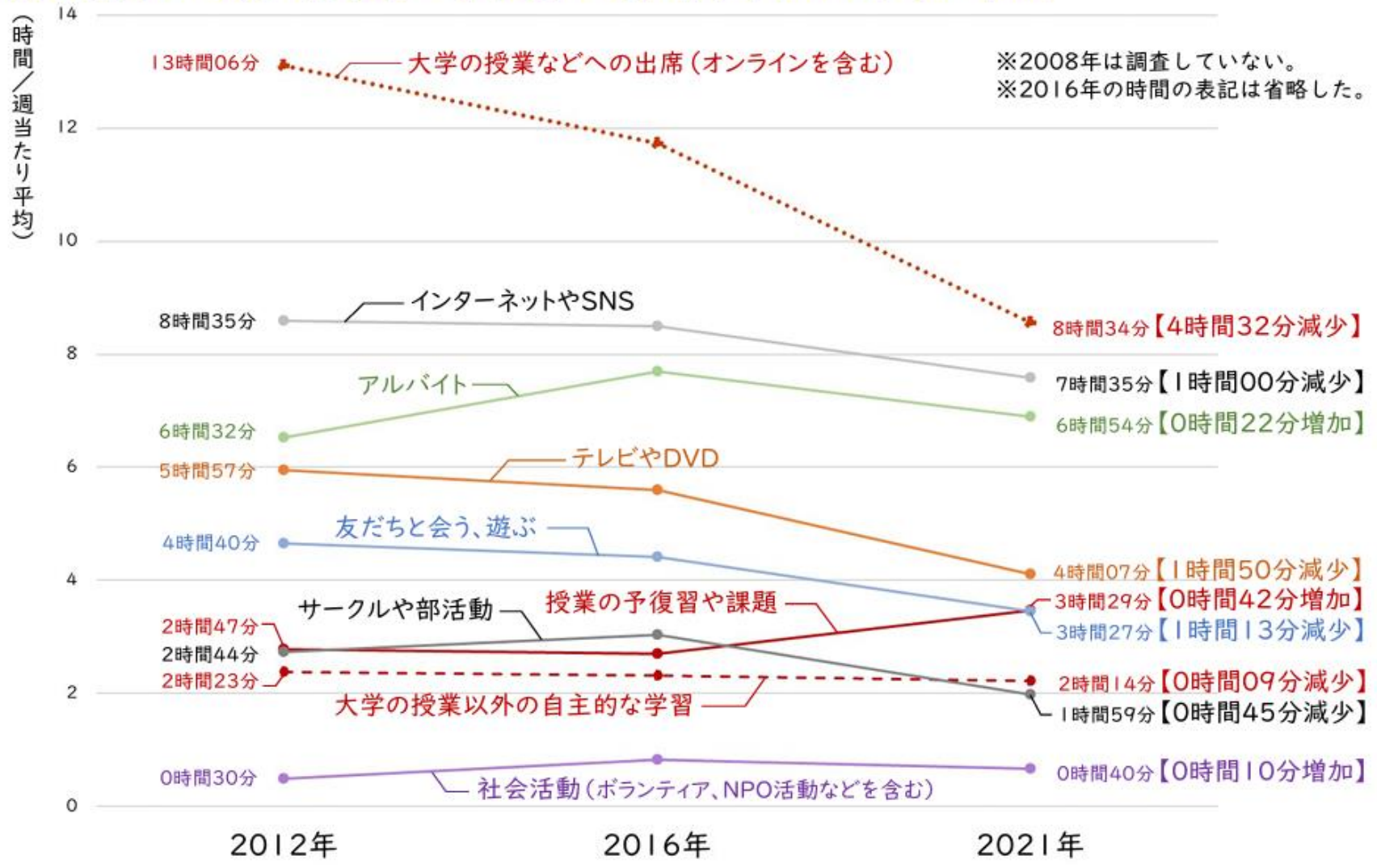
学生の「文脈・環境」

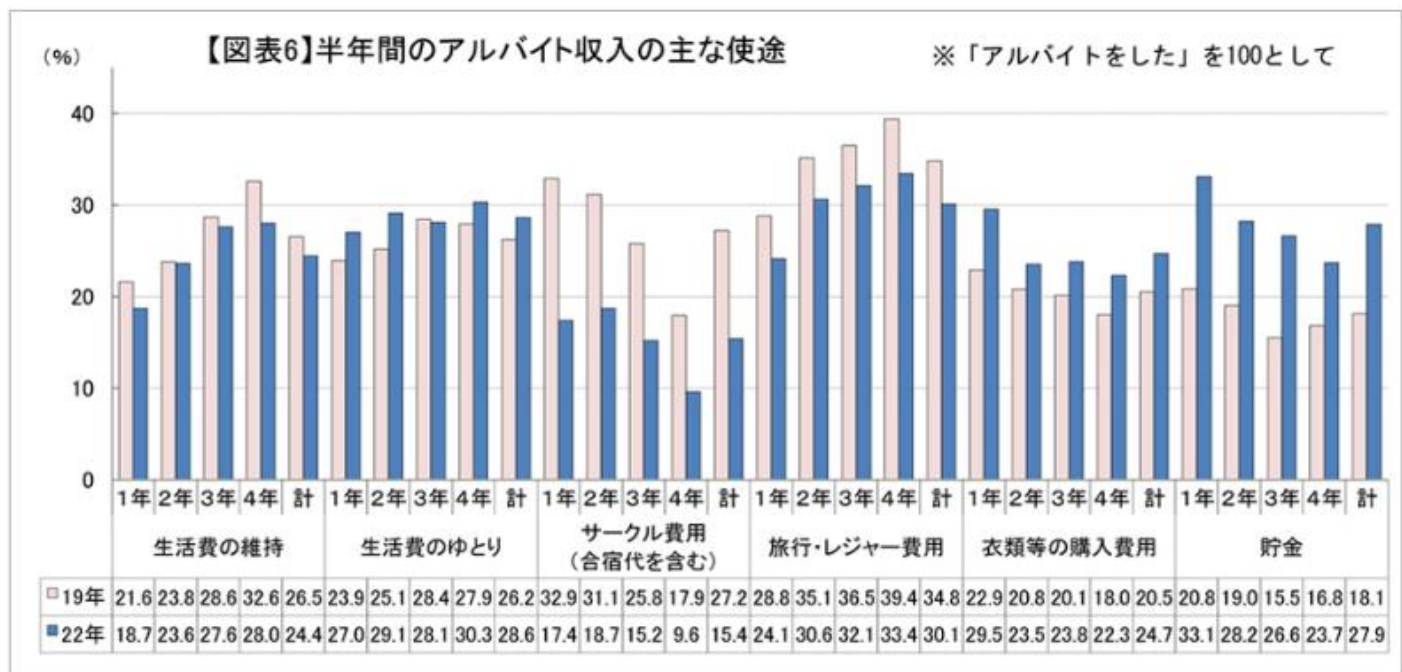
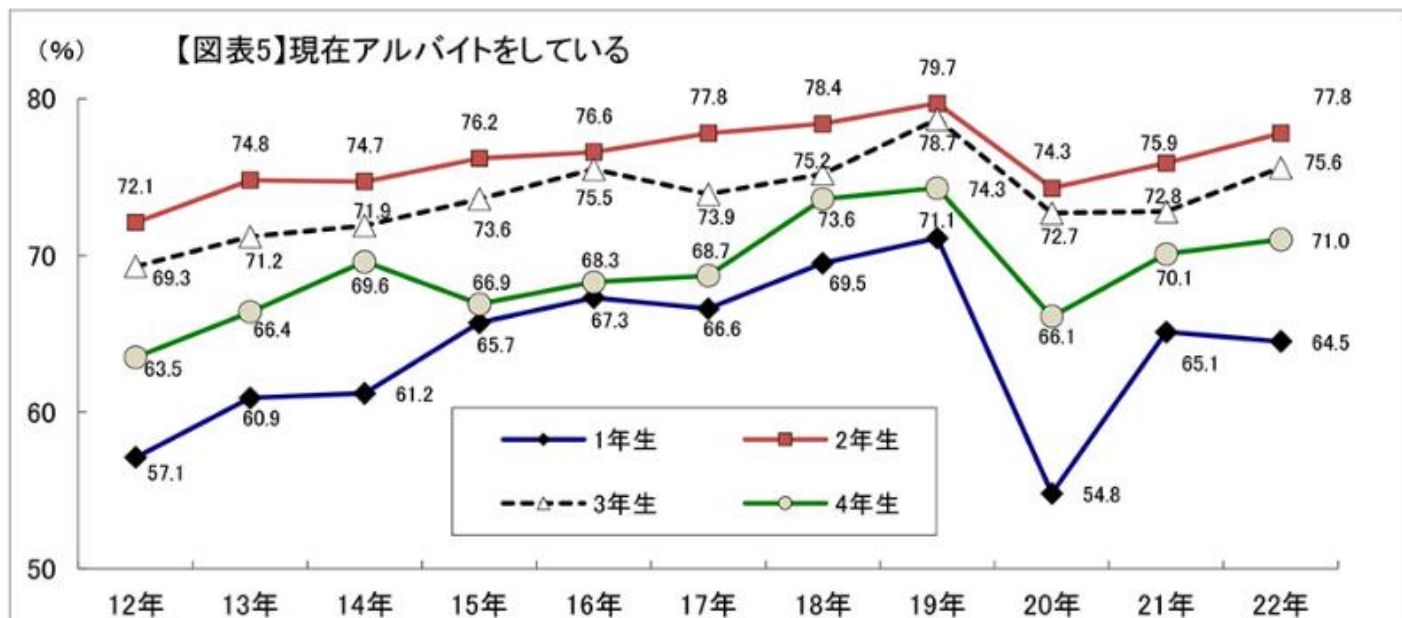
- 時間の使い方・生活
- メディア環境

◆生活時間

●授業は大幅減の一方で、予復習・課題は微増、自主学习は変化なし

◆次の項目は1週間（月曜日～日曜日）で何時間くらいになりますか。





総務省調査

- 10～20代の半数弱は平日テレビ未視聴
 - 2013年でもまだ8割は見ていたのに……
- ネットの内訳：動画、SNS、ゲーム
 - ブログ・ウェブですら23～30%
 - SNSの内訳：Instagram, Twitter, TikTok

総務省調査

- 電子書籍<紙の本（でもどっちも読まない
- 使用ツールはスマホが9割／PCは10～30%
- 新聞・テレビが信頼できるとは思っている
 - 調べ物等に使うのはインターネット一強。わずかに紙書籍

読書の状況

- ベネッセ調査：約半数の学生は週0時間
- 生協調査：46.4%は週0分
- 総務省：1日の紙読書接触率は10%未満
 - 基本的にはあまり読んでいない

日本財団18歳意識調査

- 回答者の60%は読書が好き（小説等）
- 好き／嫌いで読書冊数は断絶
- 情報・学びの場面では？
 - SNS 43.2%、YouTube 36.9%、本 33.6%

高校生の学習情報源

情報源	%
インターネット	91.3
学校図書館	30.0
公共図書館	21.1
書店	15.3
決まった情報源はない	5.1
国立国会図書館	0.5
大学図書館	0.0

学生の「文脈・環境」

- 時間の使い方・生活

- 大学／アルバイト／動画＋SNSが競合

- メディア環境

- インターネット一強。Not web, but app.

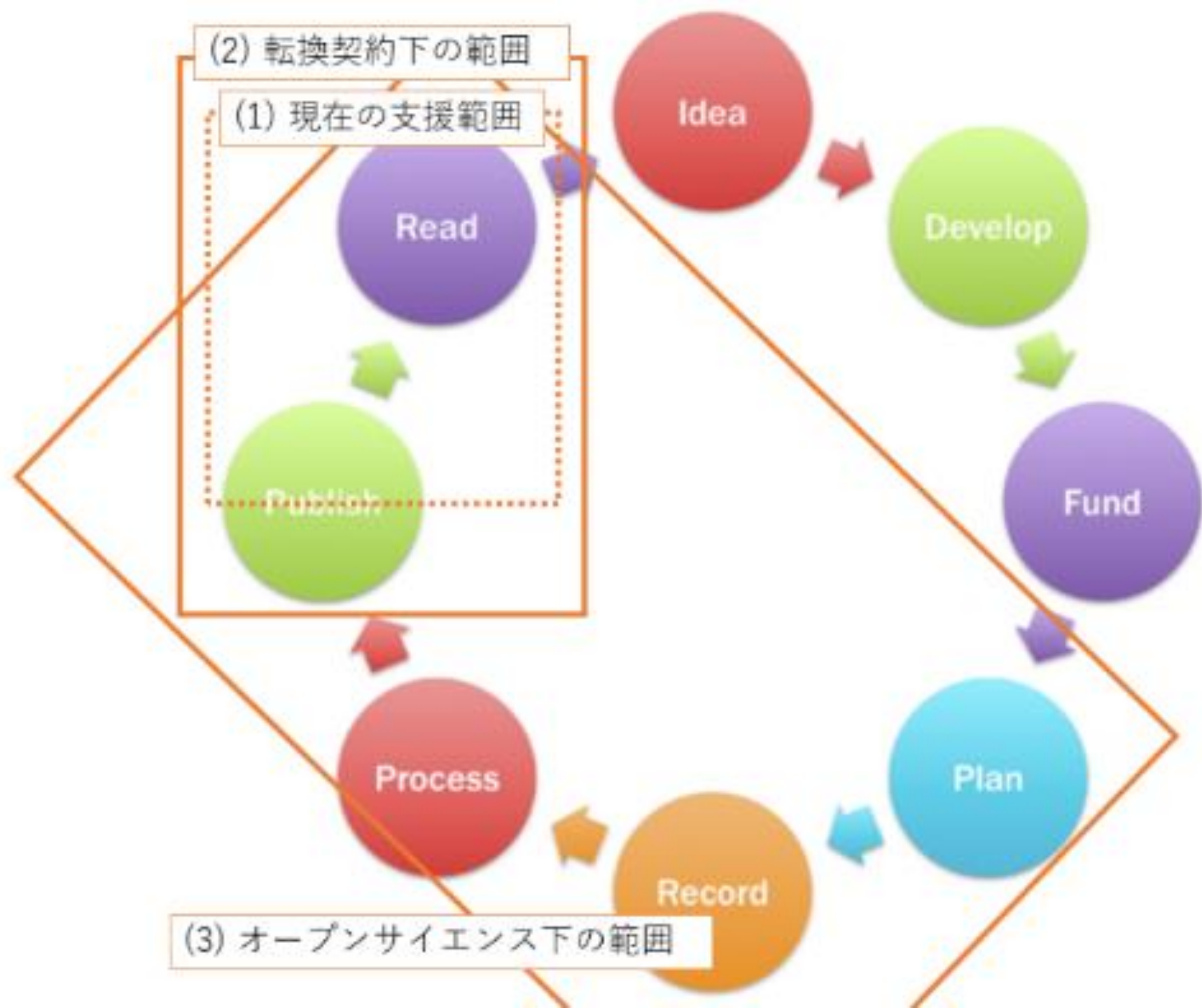
学生の情報行動と図書館

- 図書館・大学 vs SNS・動画の時間競合
- ネットのみでいいとは思っていない
 - 時間が限られている中で使えるものを使う
- 「納得感」「実感」＝時間消費の必然性
 - 「タイムパフォーマンス」を出せているか？

研究者の情報行動

研究者の「ゴール」

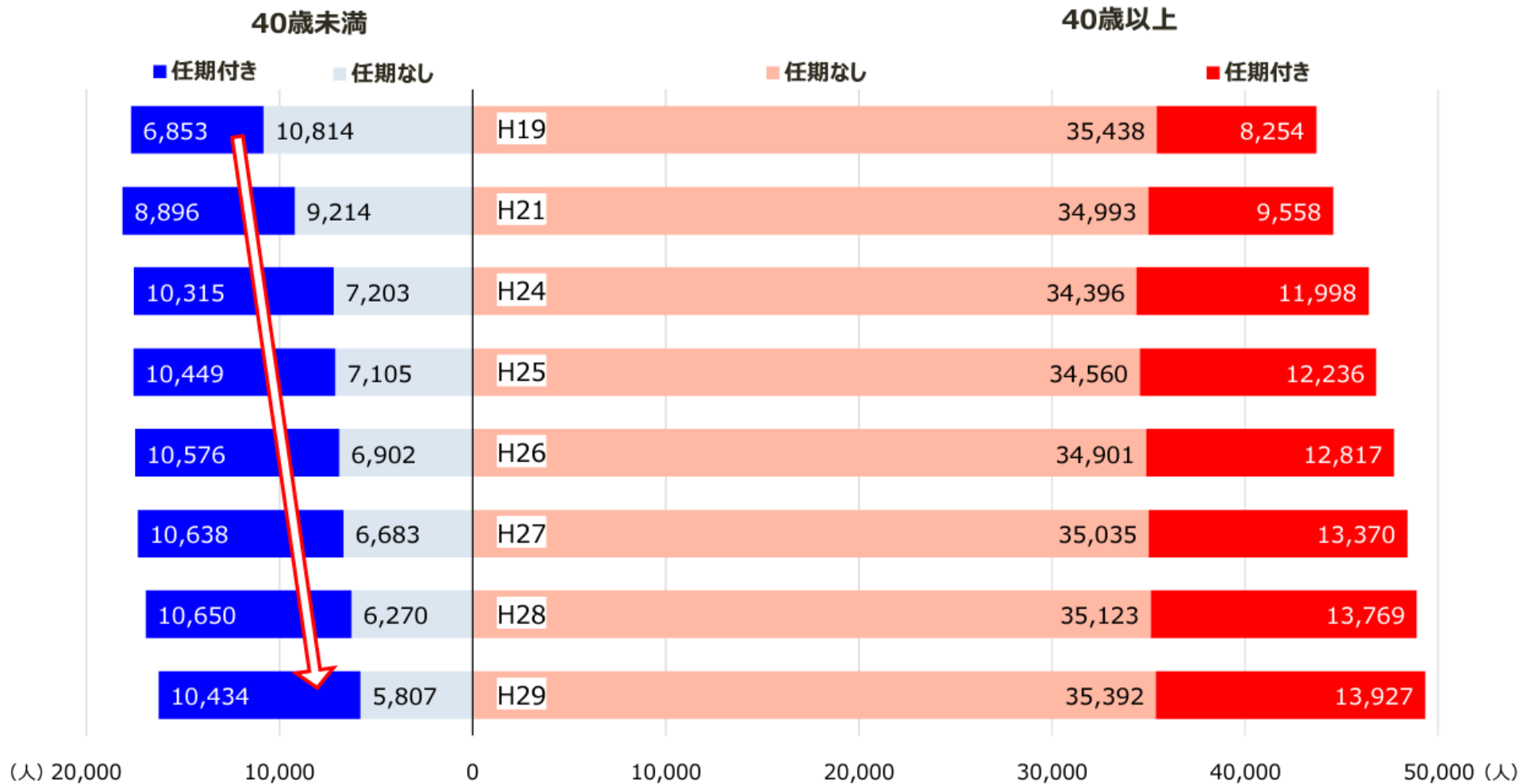
- 遠隔：論文・著書執筆、研究計画書作成、査読、論文指導、教材作成……
- 超遠隔：テニユア獲得、昇進、キャリア、名声＝評価の獲得
- 超遠隔につながる遠隔は「論文・著書」のみ



研究者の「文脈・環境」

- 雇用の不安定化・若手教員比率・基盤的資金減少
- 研究時間の制約
- 情報の入手環境・動向・意識
- 情報の発信動向・意識

国立大学教員の任期状況の推移

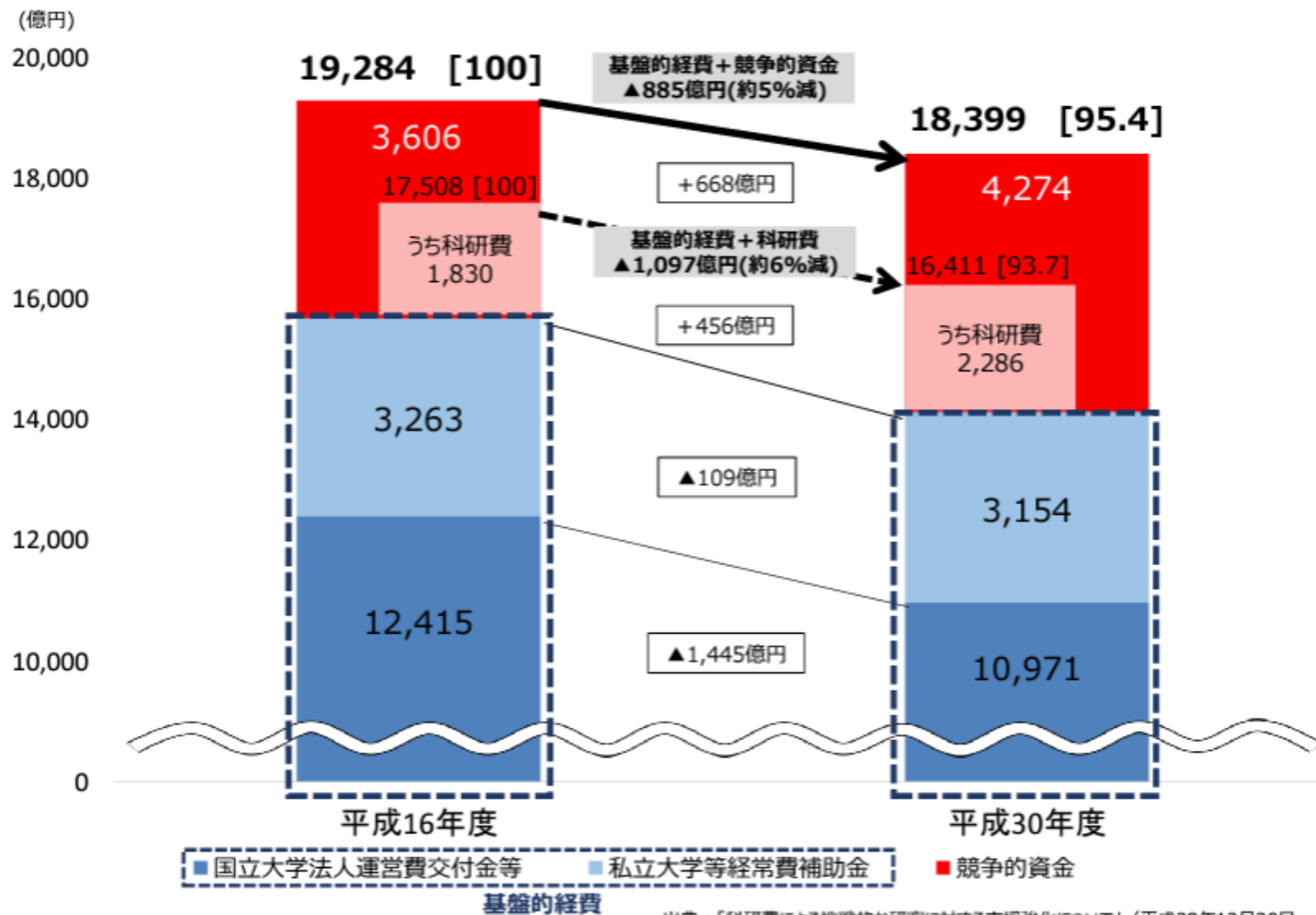


	任期付き	40歳未満	40歳未満のうち任期なし
H19	24.6%	28.8%	61.2%
H29	37.2%	24.8%	35.8%

出典：文部科学省作成

・ 文部科学省
 文部科学省
<https://www>

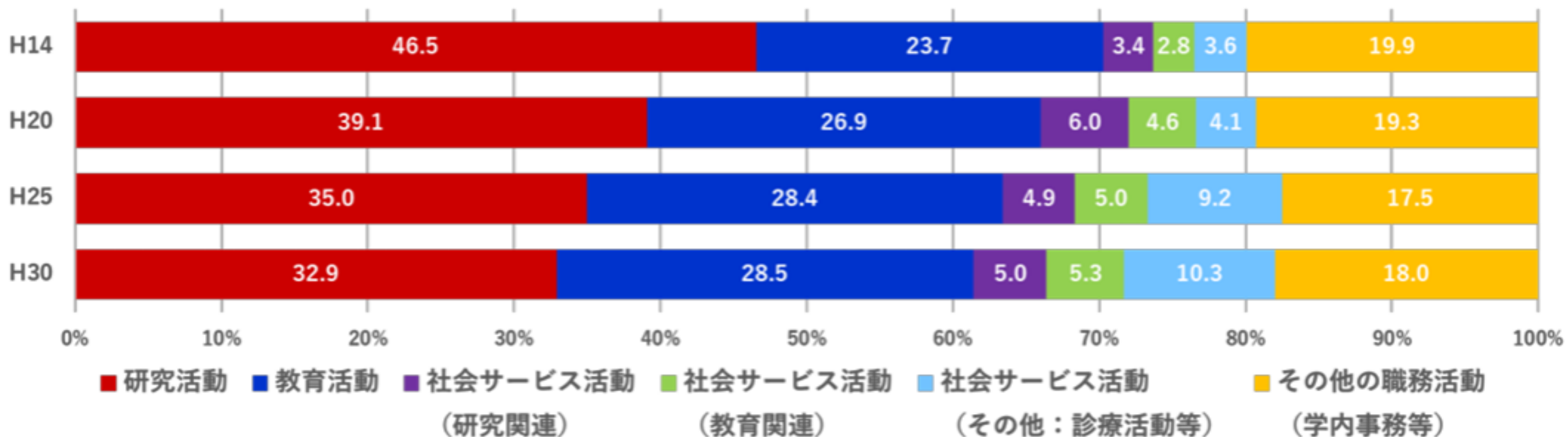
基盤的経費と競争的資金の推移



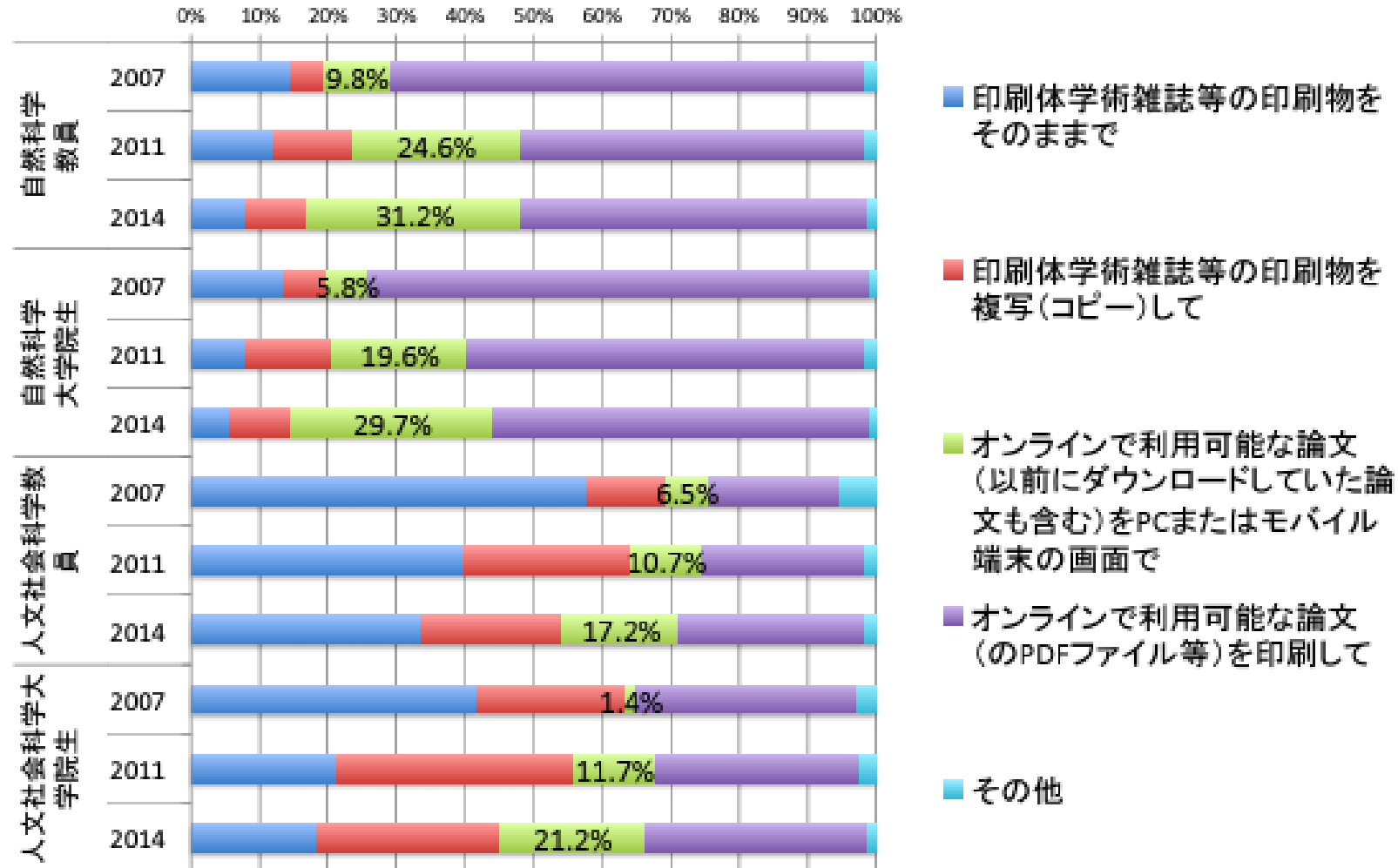
※[]内の数値は、平成16年度の合計額を100とした時の割合。

出典: 「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」(平成28年12月20日 研究費部会)等を基に、文部科学省作成。

図表3 大学等教員の職務活動時間割合の推移

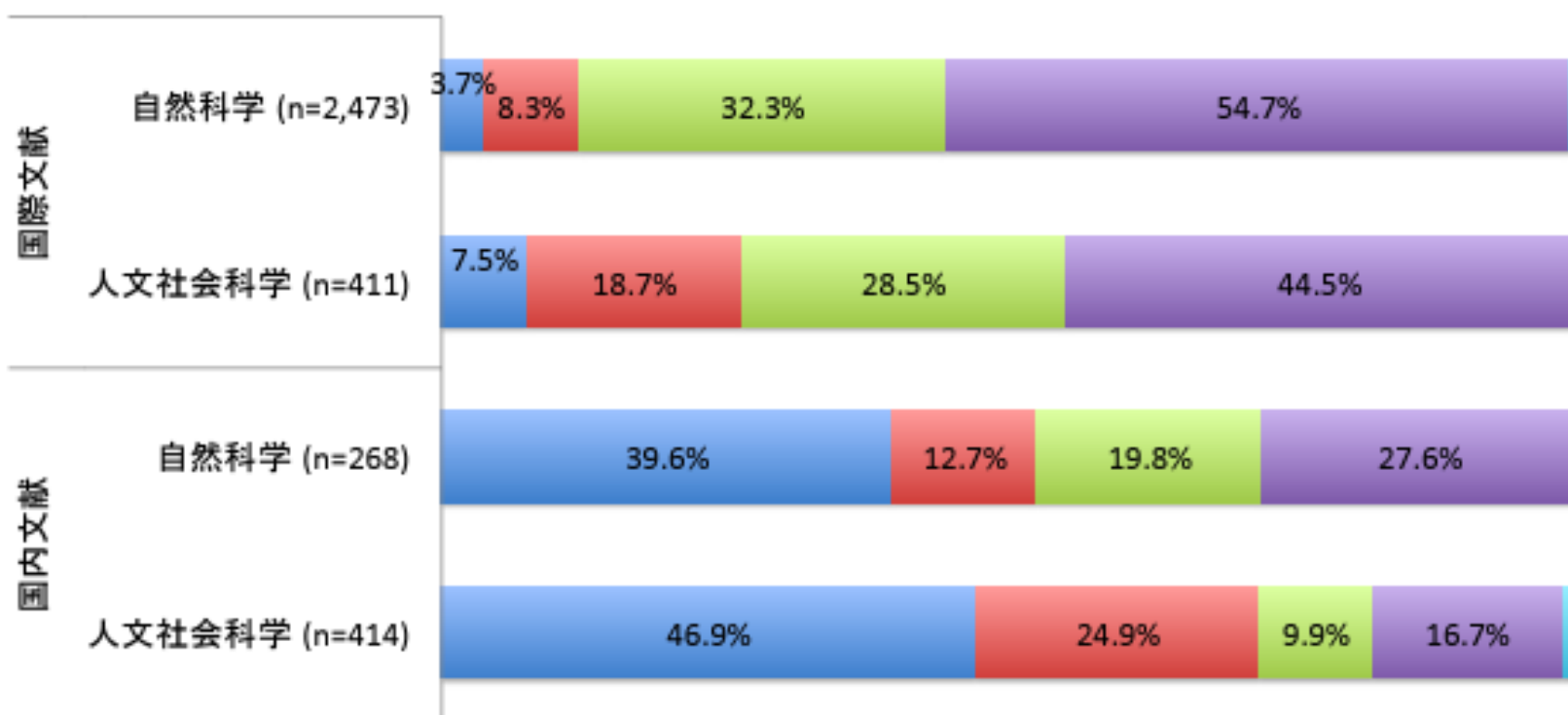


最後に読んだ論文の読み方 (2007 - 2014)



最後に読んだ論文の読み方 (Q9; ラストリーディングの種別毎)

- 印刷体学術雑誌等の印刷物をそのまま
- 印刷体学術雑誌等の印刷物を複写(コピー)して
- オンラインで利用可能な論文(以前にダウンロードしていた論文も含む)をPCまたはモバイル端末の画面で
- オンラインで利用可能な論文(のPDFファイル等)を印刷して
- その他



概要図表 2 オープンアクセスにするための費用(APC)の支払い経験

		①ある	②ない	③分からない			①ある	②ない	③分からない
全回答者 (1,176)		53%	44%	2%					
大学 種 別	国立大学等 (810)	57%	41%	2%	年 齢	39歳以下 (174)	50%	48%	2%
	公立大学 (72)	47%	50%	3%		40～49歳 (515)	53%	45%	2%
	私立大学 (294)	43%	53%	4%		50～59歳 (350)	55%	43%	2%
						60歳以上 (137)	53%	39%	7%
大学 グ ル ー プ	第1グループ (203)	66%	30%	4%	職 位	助教 (156)	46%	51%	3%
	第2グループ (284)	56%	43%	2%		准教授 (497)	51%	48%	2%
	第3グループ (312)	53%	46%	1%		教授 (499)	59%	38%	3%
	第4グループ (377)	45%	52%	3%	外 部 資 金 の 額	100万円未満 (475)	30%	65%	5%
部 局 分 野	理学 (196)	54%	46%	1%		100～500万円 未満 (285)	48%	50%	2%
	工学 (423)	48%	47%	4%		500～1000万円 未満 (235)	58%	40%	2%
	農学 (175)	55%	44%	1%		1000万円以上 (181)	77%	21%	1%
	保健 (382)	57%	41%	2%					

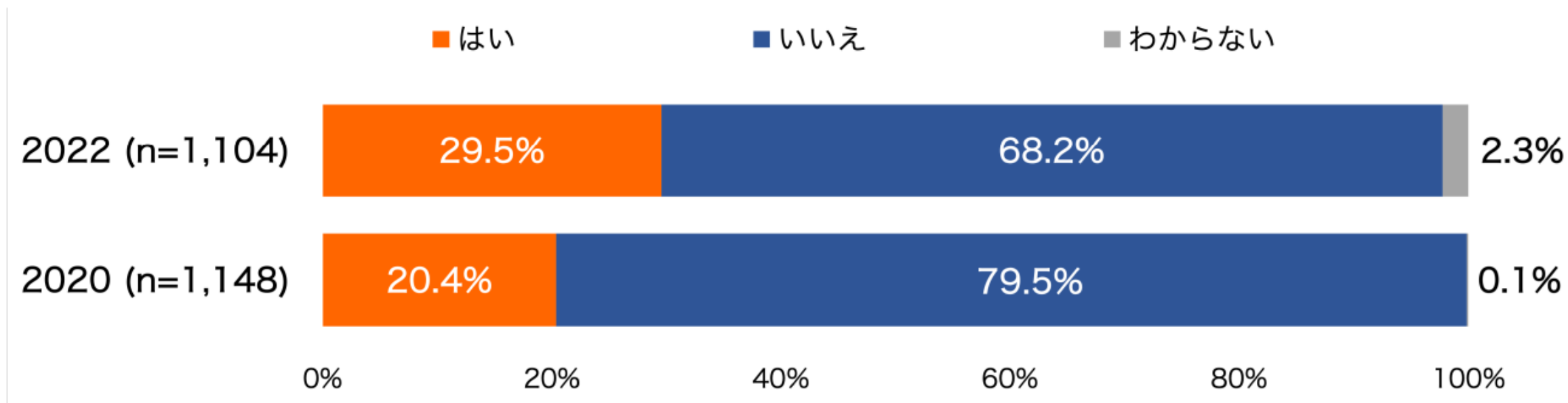


図 9 プレプリントの公開経験の経年変化 (2020/22 年)

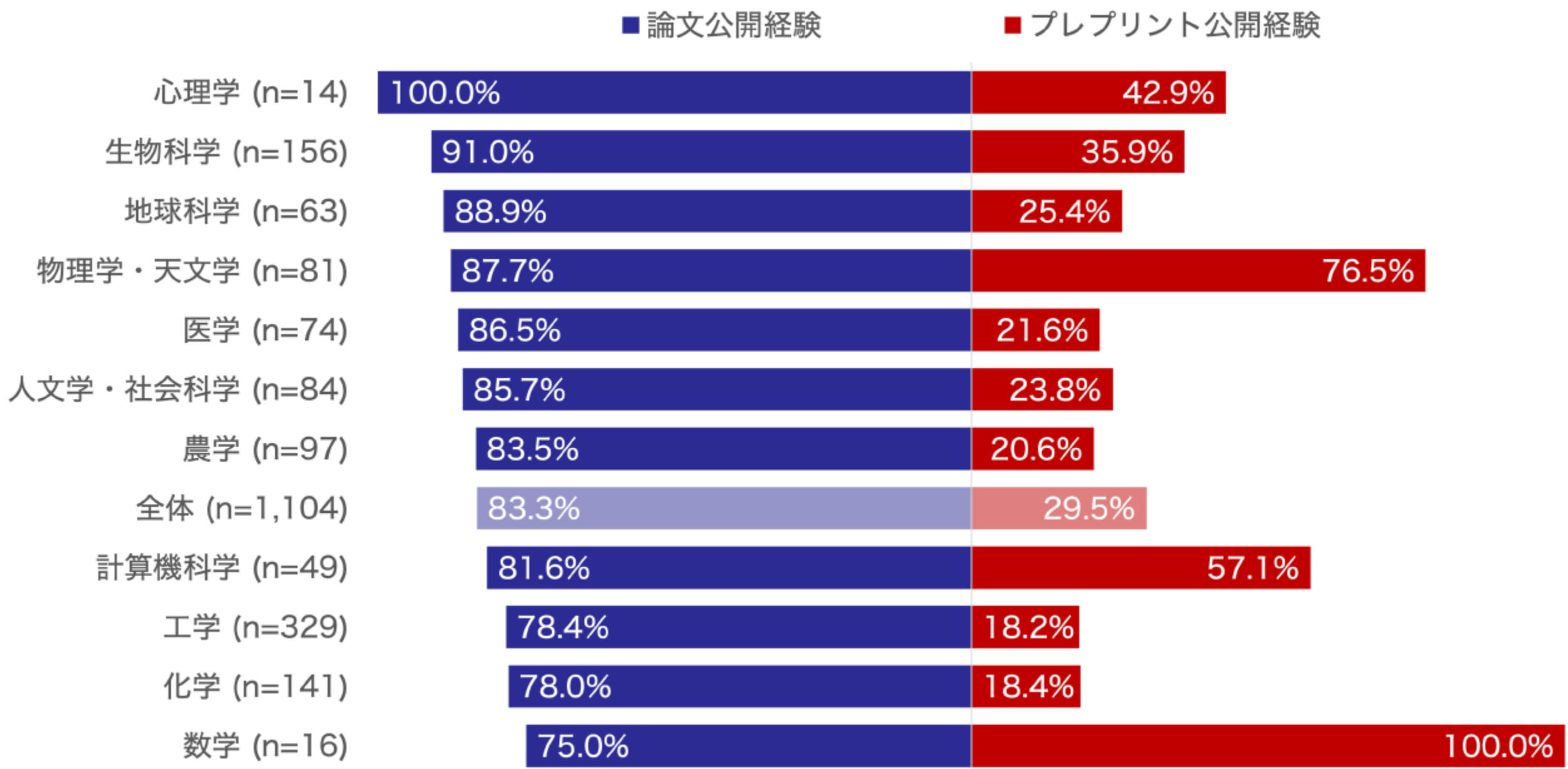


図 10 分野別論文とプレプリントの公開経験

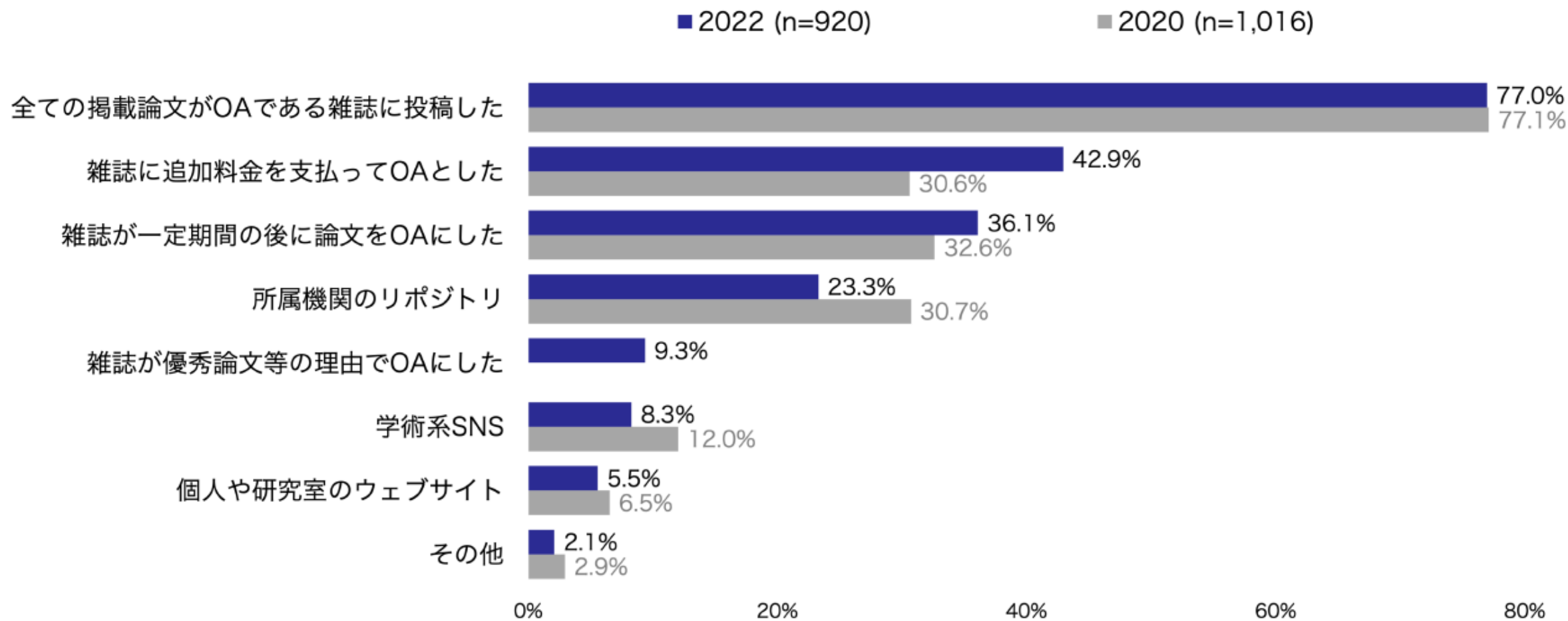


図 14 論文の公開方法（2020/22年，複数回答）



■あり ■なし ■わからない ■データは用いない

図 1 データと論文の公開経験 (n=1,268)

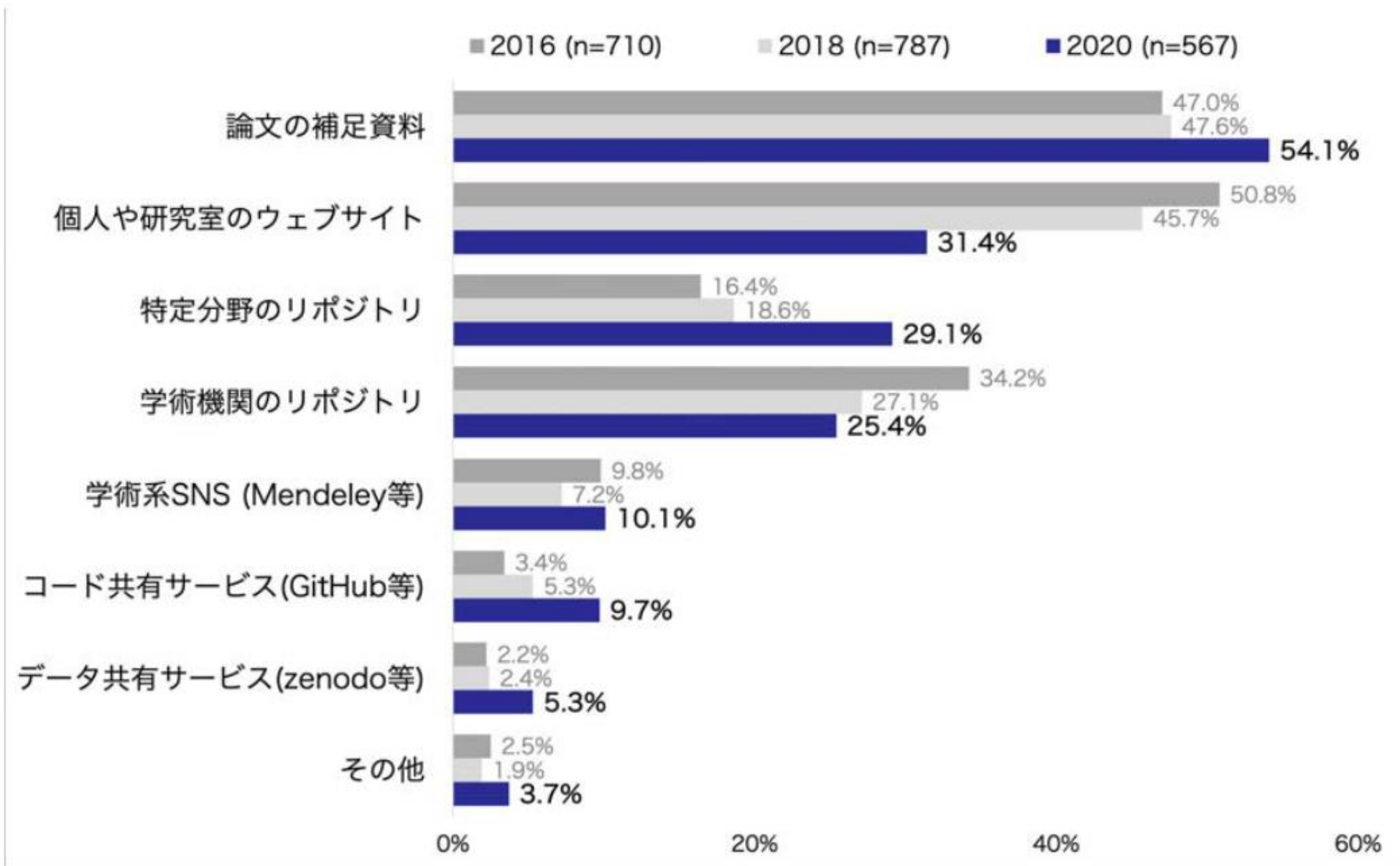
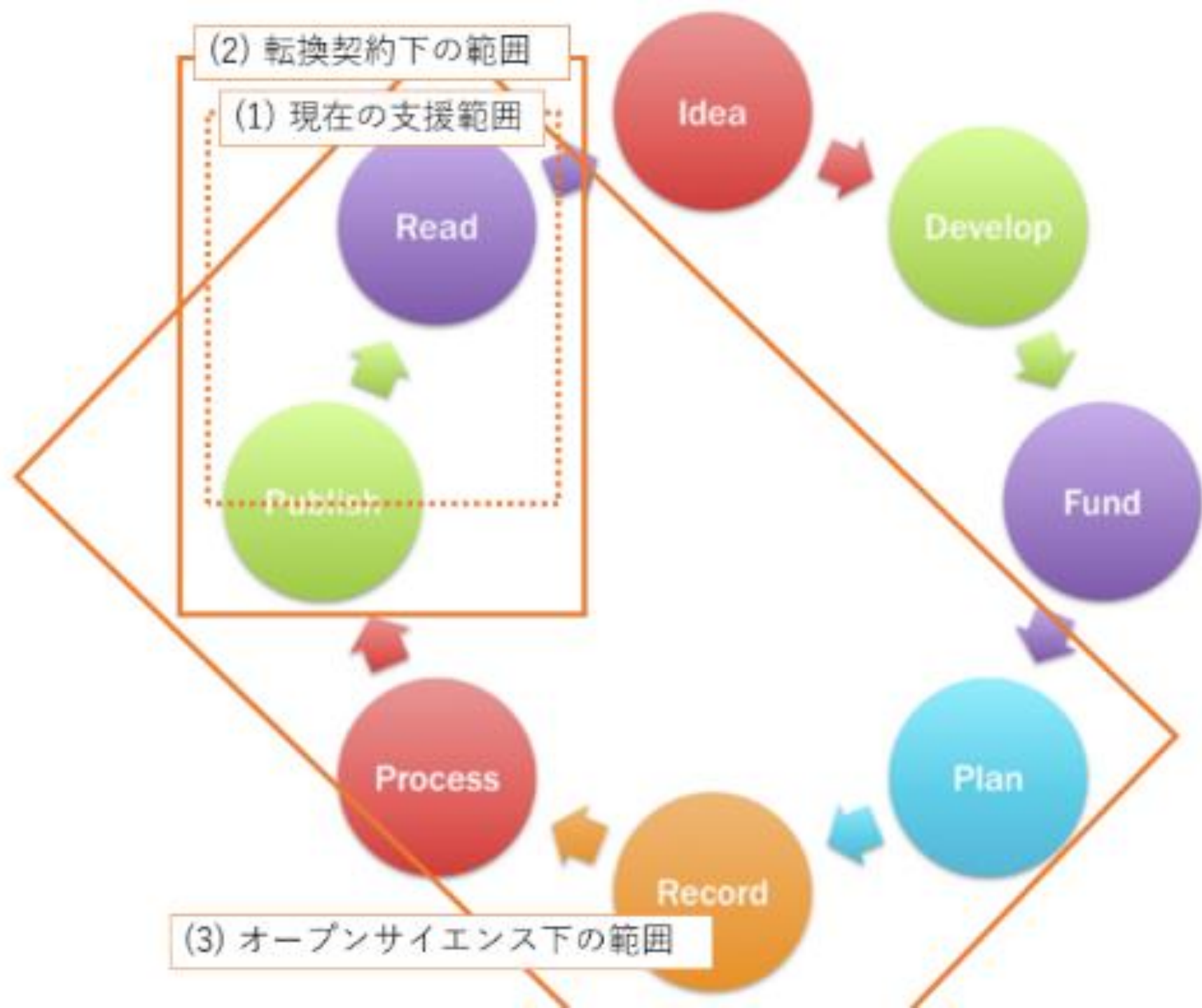


図 3 データの公開方法（2016/18/20年：複数回答）

研究者の情報行動と図書館

- 研究者はゴールがはっきりしている
- サービス対象となる「情報行動」の拡大



いくつかの論点

- スマホ世代の情報行動
- Wikipediaと学生
- ChatGPT?

質疑応答

min2fly@slis.doshisha.ac.jp

